第２回校区別協議会（光が丘春の風小学校・光が丘第二中学校）

第５学年　国語科学習指導案

令和６年１０月１６日（水）５校時
第５学年１組　３２名
授業者

研究主題：「自ら考え、伝え合い、学びを深める児童の育成」

～ICT 機器の活用を通して～

高学年　目指す児童像：「自分にあった学び方・伝え合い方で、学びを深める児童」

１　単元名　意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう
教材名　「あなたは、どう考える」

２　単元の目標

知識及び技能	・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。((1)オ) ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。((1)カ)
思考力・判断力・表現力等	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ) ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。(B(1)カ)
主体的に学習に取り組む態度	・積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって意見文を書くことができる。

３　単元（題材）の評価規準

観点	単元の評価規準
知識・技能	①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、

	語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 ②文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。
思考・判断・表現	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ②「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。
主体的に学習に取り組む態度	①積極的に文章に対する感想や意見を伝え合おうとしている。 ②学習の見通しをもって、説得力のある意見文を書こうとしている。

４　指導観

（１）児童の実態

・意識調査（質問紙法）　　※単位は「人」

①調査時期　　令和６年　６月

②調査対象　　練馬区立光が丘春の風小学校　第５学年１組　３１名

③意識調査集計結果・考察

質問	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
②目的にあった情報を探すことができるか。	２５	４	１	１
④発表のためのスライドや資料を作ることができるか。	２４	４	１	２
質問	よくしている	まあまあしている	あまりしていない	
⑤考えを表現するのに、タブレットを使っているか。	８	１４	９	
質問	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
⑥タブレットを使って、友達と話し合ったりまとめたりすることができるか。	１２	８	１０	１
質問	よくできる	まあまあできる	あまりできない	
⑧キーボード入力（タイピング）ができるか。	１９	８	４	

本学級の児童は、タブレットの操作に慣れている児童が多いが、タブレットの操作に慣れていない児童も少なからずいることが分かる。(②、④、⑧)。また、タブレットの操作には慣れていても、意見交換などの場面で効果的に活用ができていると自己評価する児童は半分になる。(⑤、

⑥)。そこで、オクリンクプラスのカード機能を使用し、画面上で自分の考えを移動させたり、つなげたりすることで、自分の考えを視覚的に分かるようにし学習を進める。さらに、カードの色を決めることで、どのカードに何が書かれているのかをすぐに分かるようにし、意見交換のしやすさにつなげる。また、操作が苦手な児童に対しては、手書き機能を使用することで、操作の負担を減らすように支援する。

（２）教材観

本教材は、特徴が三点ある。一点目は、題材設定の活動である。児童の身の回りにある事柄に関する題材の中から、自分が関心のある題材を選ぶようにする。自ら題材を選ぶことにより、自分の考えをもちやすくなるとともに、意欲をもって意見文を書くことにつながると考える。

二点目は、自分の考えを支える理由や根拠を集める情報収集の活動である。読み手を納得させるためには、よい理由が必要である。さらに、その理由を支える具体的な根拠が示されることで説得力が増す。根拠を述べる際は、それが自分の体験であるのか、人から聞いた話なのか、何かに書かれていたことなのかなど、区別して書けるように指導をする。

三点目は自分の主張を他の立場から見直す内容の検討の活動である。他の立場を想定し、その意見を打ち消すことで、読み手が抱く疑問や反論に対して、客観的に検証されている文章であると言える。つまり、文章の説得力を増すことにつながる。それだけでなく、自分の主張を見直す必要が出てきて、さらに情報を集める必要があることに気付いたり、もっと自分の考えを深めたりすることにつなげたい。

（３）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語科

［第５学年及び第６学年］　２内容

［知識及び技能］

（１）オ　思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

カ　文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

［思考力、判断力、表現力等］B　書くこと

（１）ウ　目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

カ　文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

（２）ア　事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。

を受けて設定した。

本単元は、読み手が納得するような意見文を書く学習である。また、その意見文を読み合い感想や意見を伝え合うことで、自分の主張が人に伝わったという達成感を味わったり、自分の書いた文章のよさに気付いたりすることから、日常生活の中で書くことに対する意欲を高めることにつなげ

ていく学習である。

児童が、読み手が納得する意見文を書くという意識をもつために、児童向けのニュースサイトで取り上げられた正解がなく児童の身近にある題材を扱い、どちらに賛成か意見交換する時間を設ける。そこで、友達との意見の違いを感じると共に、自分が読み手を説得するためにはどのようにすればよいかを考えさせることを通して、意見文を書くという学習課題に繋げるようにする。

読み手が納得するような説得力のある意見文を書くためには、データや体験などの具体的で客観的な理由、根拠が必要である。また、自分の主張を他の立場から見直し、反論を想定し、自分の考えに共感しない人もいることを想定して書くことも必要になる。そこで、読み手を学級の友達とし、友達と意見交流することを通して、理由や根拠の選択に助言をし合ったり、反論を想定する際の手掛かりを得たりしていきたい。自分一人で考えるのではなく、複数の友達の視点から意見をもらい自分の考えを見直していく活動を取り入れることを通して、自分の意見を客観的に捉え、物事を少しでも深く考えられる力を育んでいきたい。

また、単元の最後に友達の意見文を読み合い、感想や意見を伝え会うことで、友達の書いた文章のよさに気付き、今後の自分の文章に取り入れていこうとする意識を高めていきたい。また、友達から自分の書いた文章のよさを評価してもらい、自分の表現のよさに改めて気付くことで、日常生活でのものの見方や考え方、感じ方などの感性や、言葉への意識を高めていくことにつなげていきたい。

5　本単元における研究主題に迫るための手だて

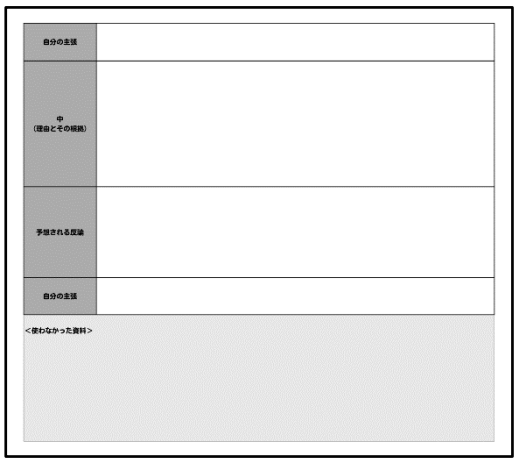
（1）効果的な ICT 機器の活用の工夫

①単元を通して、オクリンクプラスを使用する。

オクリンクプラスを使用する理由は次の二点からである。第一に、主に扱うアプリケーションを１つに絞ることにより、児童のタブレット操作に対する負担を減らすことにつながると考えたからである。第二に、オクリンクプラスのカード機能は、キーボード入力だけでなく手書きでも簡単に記入できるからである。むしろ、文字数が少ないカードを作成する場合は、キーボードよりも手書き入力の方が簡単で早い。このことから、キーボード入力が苦手な児童でも比較的扱いやすく簡単な操作で活動ができると考えた。

②１枚の学習シート（構成表）で意見文の構成までの学習活動を行う。

意見文を書くための自分の主張に対する理由やその根拠、反対意見を記録する度に異なるシートを使用するのではなく、構成までを１枚のシートで行えるようにした。１枚のシートで学習を進めていくことで、毎時間取り組んでいる学習活動をぶつ切りのように途切れさせることがなくなると考えた。



（2）伝え合う力を育む指導の工夫

①意見交流タイムの設定

児童が「伝え合う」ということを意識するように、学級目標の１つを「友達と意見を共有しながら、よりよい考えを目指し自ら学習に取り組む子」と設定している。「伝え合う」力を育むた

めに、自分の考えを書いた後に友達との意見交流タイムを意図的に設けるようにしている。その結果、友達の意見のよいと思う部分を自分の意見に取り入れようとする意識をもつようになってきた児童が増えてきていると感じている。一方、仲の良い友達同士での交流に留まってしまう課題もある。

②文字数の制限

オクリンクプラスのカードに手書きをすると、スペースの問題があるので、多くの文字を書きにくい。それが、必要なことを端的に書くことにつながる。端的に書くことで、友達と意見交流する際も伝えやすくなると考えた。

（３）学びを深める指導の工夫

書き上がった文章の感想を伝え合うことだけでなく、意見文を書く過程の中でも、友達との交流の場を設定した。初めは意図的に交流の場を設けることで、児童が交流の良さに気付くことをねらいとした。交流の良さに気付くことで、学習の中で必要に応じて児童自身で交流をしていくことを目指した（学びの調整）。

本単元に当てはめてみると、友達との交流を通して、「読み手が納得するような説得力のある意見文を書くには、読み手の視点が欠かせない。自分一人だけで考えると、どうしても独りよがりな意見となってしまう。」ということに気付き、「主張に対する根拠を考える場面や、友達から反論をもらう場面を中心に、友達と交流をすることで複数の視点から考えたい。」と自ら交流していく姿を目指した。単元を通して、友達からの意見を複数回もらうことで自分の意見を見つめ直す機会が多くなり、学びを深めていくことができると考えた。

６　単元の指導計画（全８時間扱い）

時	目標	○主な学習内容、学習活動 □ICT 機器の活用（児童）	●指導上の留意点 ■ICT 機器の活用（教師） ☆評価【方法】
1	身の回りの事柄に対して友達と意見交換し意見の違いを感じることを通して、意見文について興味関心をもち、学習課題と学習計画を立てることができる。	○身の回りの事柄に対し、自分がどちらの意見かを表明し、友達と意見交換する。 □マイボード（オクリンクプラス）に、意見によってカードの色を変え（賛成→青、反対→赤）、理由を書いて提出する。 ○意見文の目的と特徴を知る。 ○学習計画を立てる。 ○自分の題材と主張を明確にする。	●同じ事柄に対して、意見の違いが生じていることを感じさせる。 ■児童向けニュースサイト ■☆主①【オクリンクプラス・カード記述、発言】
	文例を分析することを通して、説得力のある意見文の構成や書き表し方の工夫	○文例を読み、構成を分析する。 □オクリンクプラスを使用し、分析をする。 ・緑→主張、黄→理由、赤→根拠、青→予想される反論）	●これまでに学習した説明文の構成を振り返る。 ■オクリンクプラス

2	を知ることができる。	□提出 BOX に提出された友達の分析を確認する。 〇説得力のある意見文の構成や書き表し方の工夫を理解する。 ①主張が明確で、理由（考え）・根拠（事実）と繋がりがある。 ②反論に対する自分の考えが書かれている。 ・構成（意見–理由・根拠–反論への反論–意見）の双活型。 ③書き表し方の工夫がされている。 ・文末表現（考えと事実が区別されている。）	に例文を送る。 ●理由と根拠の違いを確認する。 ■●選んだ題材と主張を Google forms で集計し、グループを作成しておく。グループごとに授業を作成し、割り当てる。 ■☆知・技②【オクリンクプラス・カード記述】
3・4	自分の主張に対する理由とその根拠を調べ、それらについて友達と話し合うことを通して、よりよい理由と根拠を選び、大まかな構成を作成することができる。	〇自分の主張に対する理由（考え）を考え、カードに書く。 □構成表（みんなのボード・オクリンクプラス）に、考えた理由をカード（黄）で書く。 〇理由に対する根拠（事実）を調べ、カードに書く。 （自分の体験、親や知人・友達の意見、本やインターネットなどのデータ） □構成表に、考えた根拠をカード（赤）で書く。 □理由と根拠を提出 BOX に提出する。 □提出 BOX に提出されている同じ題材を選んだ友達の意見を見て、理由・根拠を書く参考にする。 〇自分がよいと思う理由と根拠を選ぶ。 〇選んだ理由と根拠について友達と話し合う。	●理由（考え）と根拠（事実）の違いを確認する。 ●根拠の例を確認する。 ■☆思・判・表①【オクリンクプラス・カード記述】 ■☆主②【オクリンクプラス・カード記述】
5（本時）	異なる意見の友達から反論意見をもらうことを通して、反論に対する反論や、その理由を書くことができる。	〇反論がどのようなことかを確かめる。 〇友達と話し合い、反論をもらう。 □構成表に、反論をカード（青）で書く。 〇もらった反論から自分が取り上げる反論を選び、反論に対する反論と、その理由・根拠を調べる。 □構成表に、反論に対する反論（理由・黄）と根拠（赤）をカードで書く。	●反論の例を確認する。 ■☆思・判・表①【オクリンクプラス・ボード記述】 ■☆主①【オクリンクプラス・ボード記述】

6	説得力のある意見文のポイントを意識しながら構成表を振り返ることを通して、意見文の下書きを書くことができる。	○構成表を見直し、説得力のある意見文を書くための理由・根拠や反論を選ぶ。 ○構成表を基にし、意見文の下書きをする。 意見文のポイント（第２時） □Google ドキュメントを使用し、構成表を基にして意見文の下書きをする。	●意見文のポイントを確認する。 ●具体的な文末表現などを例示する。 ●必要に応じて取材に戻る。 ●早く終わったら推敲に取り掛かる。 ■☆知・技① 【Google ドキュメント・記述】
7	説得力のある意見文のポイントを意識しながら下書きを推敲することを通して、意見文の清書をすることができる。	○自分の書いた意見文を推敲し、清書する。 ○印刷した下書きを色分けするなど、第２時で分析した意見文のポイントが達成できているか確認する。 ○友達と読み合い、誤字脱字や意味の伝わりにくい部分を伝え合う。 □Google ドキュメントで清書する。	●意見文のポイントを確認する。 ■☆知・技② 【Google ドキュメント・記述】 ■☆思・判・表① 【Google ドキュメント・記述】
8	意見文を読み合い、感想や意見を伝え会うことを通して、自分の意見文のよさを自覚し、単元の振り返りを行うことができる。	○意見文を読み合い、友達の意見文のよいところを伝え合う。 ＜評価するポイント＞ ①主張が明確で、理由（考え）・根拠（事実）と繋がりがあるかどうか。 ②反論に対する自分の考えが書かれているかどうか。 ③書き表し方の工夫がされているかどうか。 ○自分の意見文のよさを確認し、単元の振り返りをする。	●評価するポイントを確認する。 ■ICT 機器の活用（教師） ■☆思・判・表② 【Google ドキュメント・記述】

7　本時（全８時間中の６時間目）

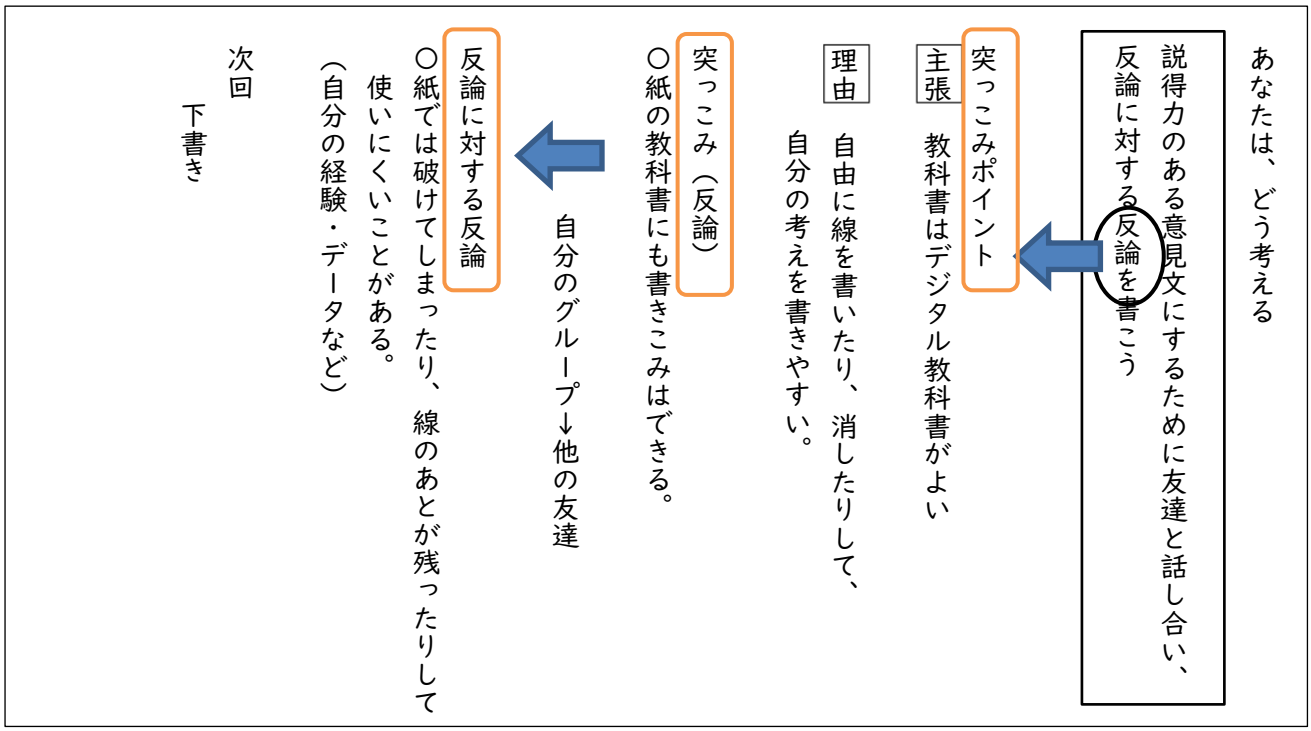
（１）本時の目標

異なる意見の友達から反論意見をもらうことを通して、反論に対する反論や、その理由を書くことができる。

（２）本時の展開

学習活動、□ICT 機器の活用（児童） ・予想される児童の反応	○指導上の留意点　★評価、【】評価方法 ■ICT 機器の活用（教師）
1　前時の学習を振り返る。 ・友達と話し合い、理由・根拠を決めた。 2　本時の学習のめあてをつかむ。	
説得力のある意見文にするために友達と話し合い、反論に対する反論を書こう。	
3　話し合う内容の観点を確かめる。 ・反論ってどんなこと？	○第２時の意見文の分析を振り返り、反論とはどのようなことかを確かめる。 ○理解が難しい児童に対し反論のイメージを掴ませるために、「突っ込みポイント」であることを確認する。
4　グループ（テーマ混合）で友達と話し合い、反論をもらう。 □聞いた反論を、構成表（みんなのボード・オクリンクプラス）にカード（青）で記録する。	・「●●」と理由に書いているけれど、「▲▲」ということがありませんか？この▲▲が『突っ込みポイント＝反論』 ■★友達の理由・根拠に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、説得力のある意見文を書こうとしている。（主①）【発言・オクリンクプラスボード記述】
5　他の友達と話し合い、反論をもらう。（もっと反論を集めたい児童）（学びの調整）	
6　もらった反論から自分が取り上げる反論を選び、反論に対する反論（理由）を考え書く。	○説得力のある説明文にするには、どの反論を選べばよいのかを考えさせてから選ばせる。 ・多くの人が感じると思われる反論。 ・自分の理由・根拠に対して、大きく影響を及ぼす反論。
7　学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	■★反論に対する説得力のある反論やその理由・根拠を書いている。（思・判・表②）【オクリンクプラスボード記述】

8　板書計画



9　成果と課題

（1）成果

①「効果的な ICT 機器活用の工夫」

・単元を通してオクリンクプラスを活用することで、児童が操作に慣れ親しみ、ICT 機器を使用することに対する抵抗がかなり減った。

・オクリンクプラス上の１枚の学習シートで意見文の構成まで学習を進めたことや、カードの色分け（主張は緑、理由は黄色など）を行ったことで、構成が視覚的に分かりやすく、児童が思考を整理しやすくなっていた。

・意見を聞くだけで考えるよりも、タブレットで友達の意見を見ながら自分の意見を考えられたことで、児童が自分の意見を考えやすくなっていた。

②「伝え合う力を育む指導の工夫」

・意図的に「意見交流タイム」を設定することで、友達の意見のよいと思う部分を自分の意見に取り入れようとする姿が増えた。

③「学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

・意見交流をすることで、友達から自分にはない視点での意見をもらうことができ、自分の意見をよりよいものにすることにつなげようとすることができた。

・振り返りをプルダウンにし一覧で提示することによって、児童が意見交流のよさに気付きやすくなったり、本時までの自分の活動を振り返ったりしやすくなっていた。

（2）課題

②「伝え合う力を育む指導の工夫」

・グループで意見交流は活発に行われていたが、感情的に反論を言うことが目的となり、「自分の意見文を説得力のあるものにするために友達から反論意見をもらい記録する」という本時のめあ

てを意識できなくなった児童が見られた。

・記録タイムの設定や、記録者をつくるなど、意見交流したことをしっかりと記録しておくための工夫が必要であった。

③「学びを深める指導の工夫（「振り返り」等）

・振り返りに自由記述欄があってもよかった。

・ICT 機器を使用することで、自分の意見の根拠となる多くの情報を集めることができるが、その情報が本当に正しい情報なのかどうか複数のサイトで確認するなど、情報モラルへの意識を高める必要がある。

（３）指導講評　講師：練馬区教育委員会指導主事　都丸　裕貴先生

・課題の明確化は、子供たちの学習活動の整理に繋がり、色を分けることも効果的である。そうすることで、どんな反論が出るか、予想した上で進めることが考えを広げることにつながる。

・友達と意見交流をする活動などを、指導計画の中に計画的に位置付けていくことが大切。学び方を学びながら、３学期にはどのように意見交流を行いたいか、児童とともに考えていくことも必要。

・学級目標など、伝え合う風土の醸成は、普段の学級づくりから大切。

・孤立した学びから協働的な学びの実現につなげていくことが大切。

・ICT 機器を活用する学習を進めていくとともに、情報モラル教育の充実がより必須。

・振り返りを一覧で見られることのよさがある。他の児童の考えも見ることができるし、教員は児童の学習の様子を把握しやすい。

・協働的な学びでは、考えを広げたり深めたりすることが重要。どのようにしたら、より子供たちが充実した活動を行うことができたか。他の児童の状況を把握できるような環境を設定することで、もっと話を聞きにいけるきっかけとなる。

・教員が一人一人の考えを把握し指導につなげることや、子供同士で考えを共有し互いに伝え合うことをポイントに、ICT 活用を考えていくことが大事。